

# 黒部を未来へつなぐ

## まさゆきの8つの想い

1. 観光地整備と情報発信力の強化
2. 住み続けたいと思えるまちづくり
3. 安心・安全なまちづくり
4. 都市基盤の整備
5. 人口減少時代のまちづくり
6. 災害に強いまちづくり
7. 働き場所のあるまちづくり
8. 生き活きと生活ができるまちづくり

以上、精力的に動いているので、その内の6万円分のみ申請予定で以外のものは自費となります。

そしてH28年度上半期は、滋賀県大津市にある全国市町村国際文化研修所での議員研修会出席でJR代と参加費2回、東京黒部会総会出席、福祉人材フォーラム出席、ソーシャルファーム国際シンポジウム出席、永平寺中学校視察、新潟ジオパーク国際フォーラム出席、大阪の障害者就労移行施設視察、地方自治学習会黒部の出席、三重県桑名市視察、ホームページ追加更新費など。

成川正幸

10月以降も全国市町村国際文化研修所での議員研修会出席を予定していますので、下半期6万円も超過する予定です。また、各種団体費や新聞雑誌などは全て自費。名刺と年2回発行の会報誌は後援会として出しているの自費。問題となっている茶菓子代金の発想なんてどこをどう考えても無理です。

公務活動費対象の有無に関係なく、セミナーや視察の報告書はその都度、ホームページに掲載しています。もし領収書がご覧になりたければ、おっしゃってください。既に提出した昨年度までのものは、コピー、提出前の今年度分は、手元にありますのでいつでも見たいだけです。また、黒部市のホームページに全体の公務活動費支出状況一覧が掲載されています。詳細については、議会事務局にお問い合わせください。加えて、黒部市の報酬について一か月370,000円。そのうち源泉所得税は72,300円。詳細については黒部市議会議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例を参考にしてください。

以上、大変厳しい財政ですが、新人議員だから何も知らない分らないと言えないので、市民から負託をいただいた任期あと2年、しっかりと勉強して黒部市の住民福祉向上に取り組みたいと思います。

今、富山は公務活動費の使途で大きく揺れています。議員として怒りと悲しみで連日の報道を見ている。私も色んな方とお会いする度に大丈夫かと言われます。「大丈夫です。」と答えています。「大丈夫だと言った人が辞任している」と言われるので、ここで現状をお伝えしたいと思います。

黒部市の公務活動費は月3万円、年間36万円です。そのうち会派で使うのは月2万円の24万円。個人で使えるのは月1万円の12万円です。会派分は、会派で視察へ行ったり、市役所にある会派室の事務費用に充てられており、会計責任者がしっかり管理しておられます。今、問題になっているのは個人分の12万円は、議員それぞれが使い方を決めて運用しています。その公務活動費の個人分は年2回

に分けられて後払いで頂くことになり。今年度上半期分は、9月までの活動ですので、10月に手元に来ます。その為には、領収書と活動しているのあれば案内文や報告書の提出が必要となります。ちなみに私のH27年度は、滋賀県大津市にある全国市町村国際文化研修所(JIAM)での議員研修会出席でJR代と参加費3回、東京のふるさと回帰センターの他自治体のUIJターンセミナー視察と東京黒部会総会出席でJRで東京往復代ということ、大津市往復3回と東京往復2回(参加費含む)。そして黒部市議会必需となっているiPadの使用料で合計12万円を請求しています。実は他にも動いているのですが、上限12万円なので、その他は自費となります。



黒部市議会議員  
なりかわ

# 成川まさゆき

## 黒部は今、分岐点！ 先人の努力を次世代へ つないでいきたい。

facebookで活動公開中！



平成28年6月議会

1. 「ひきこもり」施策について

①市内小中学校において現在、不登校になっている児童生徒数と対応についてどうか。

(答弁)

昨年度末時点で昨年度は小学校2名、中学校24名。今年度は、5月末時点で小学校0名、中学校8名。

カウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの面談、適応指導教室ほっとスペースに通う子どもたちへの学習・生活指導、担任の継続的な家庭訪問などをおこなっている。

②生活困窮自立支援法も施行され、全国では「ひきこもり」実態調査を行う自治体がでてきたが、本市も実施してはどうか。

(答弁)

市としての「ひきこもり実態」の把握は必要。県と協議していきたい。

③「ひきこもり」が本市の課題の一つだという認識の下、計画を策定できないか。

(答弁)

次期計画策定においては、正しく理解できるよう普及啓発を行い、関係部署と連携しながら、精神保健対策に取り組んでいきたい。

※まさゆきの視点

ひきこもりは、怠けではなく病気である。好き好んでひきこもっている人は誰ひとりいない。子ども達は、黒部市の未来である。その子ども達が将来自立できるように今後も応援していきたい。

2. シティプロモーション施策について

①本市の対外的な認知度、魅力度、移住意欲度などの総合的なまちのブランド力の現状について。

(答弁)

「魅力度」という側面においては、全国的には、「行ってみたい」と評価されることも多いが、それも「黒部ダム」などのイメージが先行したものであることが少なくないと思われる。

極めて高い「黒部」の「認知度」を最大限に活用し、さらには「居住意欲」に結び付けていくことにより、「総合的なまちのブランド力」が高まっていくものと考えている。

②平成28年度予算説明資料において、平成23年度からC1戦略と併せて本格的に実施しているところ。昨年までの5年間でどのような事を実施して、その成果はどうだったか。

(答弁)

「まっすぐ黒部」のC1デザインを平成24年度に制作し、黒部宇奈月温泉駅の開業をPRしてきた。また、首都圏を中心にプロモーション活動を実施した。

新幹線開業後の主要観光地の入込者数は大幅に増加しており、効果有と考えている。

今後は、本市の魅力を最大限PRできるよう、新しい視点でインパクトのあるシティプロモーションを考え、効果的な事業の推進に努めていく。

※C1戦略とは、企業イメージの統一と社内の意識改革を目的として、企業の理念、行動表現に一貫性を持たせるためのトータルな活動計画。

③大自然のシンフォニー 文化・交流のまち「黒部」をどうイメージさせるのか、今後、本市を正確に伝えるために、分かりやすく統一的なキャッチフレーズが必要だと考えるがどうか。

(答弁)

次期総合振興計画の将来都市像については、これからの黒部市の目指すべき姿としてふさわしい、崇高なものとなるよう、現行フレーズの承認も含めて検討したい。

※まさゆきの視点

「黒部ダム」のイメージを押しよけていけないのだろうか？今後、さらなるブランドイメージの確立が必要だと考えます。

3. 「食品ロス」施策について



黒部川砂防視察

①本市においてゴミ。一般・事業系ごみの現状・推移はどうか。また、どのように考えているのか。

(答弁)

排出量は家庭・事業共に微増の傾向にあり、減量化に取り組んでいきたい。

②食品ロス削減のための30・40運動などの啓発運動を進めてはどうか。

(答弁)

現在、市単独での食品ロス削減の

削減のための啓発運動は行っていない。今後は、県との連携を図りながら、啓発運動を推進していく。

③フードバンク事業運営、またはフードバンク事業支援を検討してはどうか。

(答弁)

企業等から無償で提供される販売期限切れ等のいわゆる食品ロスにあたる食品を、食べ物を必要としている団体に提供するいわゆるフードバンク事業の運営や支援については、その中の一つとして慎重に検討していきたい。

④「食品ロス削減」の具体的な取り組みを市の計画に盛り込んではどうか。

(答弁)

現在本市では、特筆すべき「食品ロス削減」の具体的な取り組みを行っていないため、黒部市一般廃棄物処理基本計画にも食品ロス削減に特化した項目や記載はない。食品ロス削減に関する取り組みはこれから本格的に開始されるので、必要に応じて遅滞なく諸計画に取り組みを反映していく。

※まさゆきの視点

黒部市のゴミは増えている！きれいで住みよい町は、市民一人ひとり日々の心がけ。自らも常に「きれいなまち」の意識を持って生活したいと思えます。



皆様のご意見をお気軽に是非、お寄せください。

<後援会連絡先>

成川正幸 (なりかわ まさゆき) TEL(0765)57-1189

黒部市植木107-7 FAX(0765)57-1189

携帯090-1317-7155 Mail: masa.narikawa@gmail.com

平成28年9月議会

1. 「黒部市障がい者計画」について

①現在の相談支援窓口の現状と今後の取り組みは。

(答弁) 現在、市では3事業所に相談支援業務を委託しているが、ケアプランの作成等ができる指定特定相談支援事業者は不足している状況。今後、市内事業所に対し、相談支援事業者指定に向け働きかけ、支援体制の充実を図っていく。

②相談窓口がわかりやすい場所であれば、周知・啓発に繋がるのでは。

(答弁) 今後、市内障書福祉サービ事業所に働きかけ、身近に相談できる相談支援事業所を増やすよう努めていく。

③障害者差別解消に向けての取り組み状況は。

(答弁) 市職員に対し対応要領を策定し、5月には、職員向けに県条例を含めた研修会を開催。今後、企業、市民に対しても、障害者差別解消法についての啓発活動を行い、公的施設においても働きかけていく。

④就労継続支援事業所、就労移行支援事業所等の充実に向け、市に就労移行支援事業所設立支援の考えは。

(答弁) 障がいには様々な障がいがあり、それぞれニーズに対応していくには、市も含め、広域的な支援体制が必要であると考えている。このことから、新川地域にある障書福祉サービ事業所の中で、障がい者自身にあった施設を利用できるよう関係機関との連携を強化し、充実を図っていく。

※まさゆきの視点  
ここまで新幹線開業や新庁舎建設など大型事業が進められてきて、今度は、その施設をどう上手く活用していくかです。その為には市民一人ひとりの安心した生活だと考えます。



2. 地籍調査の推進について

①本市の現状はどうか。

(答弁) 本市における地籍調査の進捗率は27.3%で、昭和48年より休止中だが、土地区画整理事業や土地改良事業を実施しており、これらの事業が地籍調査と同等の指定を受けることができるので、地籍調査の進捗が図られている。

②地籍調査が実施、未実施のメリッ ト・デメリットは。

(答弁) 地籍調査が未実施の場合、「隣地との境界問題」「相続や土地取引等において、正確な位置がわからない」「登記簿と測量の面積が違うといったことにより手続きに時間がかかったり、土地の有効活用ができない」など、地籍調査を実施の場合は、「土地下

ラブルを未然に防止する」、「災害復旧作業を円滑に進めることができ、公共事業の効率化・コスト削減や固定資産税の適正化・公平化が図られる」などといった効果もある。

③今後、高齢化が進んでいる地域では、空き家増が想定されるが、そうなる前に取り組みが必要では。

(答弁) 地権者が所在不明の場合、調査が頓挫してしまうこともある。防止するためにも、地権者が明確なうちに調査を実施することは重要である。

④現在、公共施設再編から固定資産台帳の整備が行われているが、公共地の適正管理の面で支障がないか、また、今後のまちづくりをする上で問題にならないか。

(答弁) 固定資産台帳の整備等に支障が生じることはない。

⑤本市において、地籍調査が進んでいない理由は。

(答弁) 市街地43.2%、農用地95.8%、林地1.8%と本市の地籍調査対象面積に占める林地の割合が多いことが、進捗率を引き下げている要因となっている。

⑥地籍調査が進んでいる他自治体と本市と何が違うのか。

(答弁) 林地の面積割合が進捗率の差である。

⑦地籍調査の趣旨、方法、メリッ ト・デメリットが市民に理解されているのか。また市民に周知方法はどうか。

(答弁) 市民の制度に対する理解度は低いと認識している。しかしながら、地籍調査の重要性は高く、今後必要性やメリッ トを周知する方法を検討し、町内や地区等の理解・協力が得られ

れば、調査の実施を検討していきたい。

※まさゆきの視点

市は、市民からの声が上がれば実施すると答弁がありました。東日本大震災の復興において、地籍調査が実施済みと未実施の場所では進捗の進み方に大きな差がありました。その教訓から国の後押しにより、全国では地籍調査の取り組みを強化している自治体が出てきています。富山県内でも同様であり、平成27年度には15自治体中、10の自治体で地籍調査が実施されています。交付税措置がある事を考慮すれば自治体は5%のみの費用で行うことができると思います。未来へのツケを少しでも無くすることなどを考えると、市民に地籍調査のメリッ トをもっとPRして、理解してもらおう努力が必要ではないか。後世に残さないとはいえ、しっかりと意気込みで取り組んで欲しいと思います。



なりかわ 黒部市議会議員  
**成川まさゆき**

facebook®で  
活動公開中!

「成川まさゆき」  
ホームページ  
QRコード▶  
こちらからどうぞ!



# I LOVE KUROBE



## まさゆきの8つの想いノート 2年の自己評価と3年目の挑戦!

### 1. 観光地整備と情報発信力の強化

北陸新幹線が開業し、北陸の注目度が一気に上がりました。「くろべ=ダム」から脱却です。

黒部の魅力がたくさん詰まった映画「カノン」が大ヒットしますように♪

### 2. 住み続けたいと思えるまちづくり

昨年12月に富山民俗の会において、「黒部市の盆踊り」の研究発表をさせていただきました。また、ジオパーク推進のためにジオカフェの開催などジオパークの取り組みから住み続けたいまちづくりの推進を図りました。先人たちが残してくれた宝を大切に後世に。今後も引き続き取り組みます。

### 3. 安心・安全なまちづくり

黒部市内でも人口が増えている地域、減っている地域があり、今までに無かった問題が出てきています。増えている地域では、交通標識や道路拡張、防犯灯の設置など新たな要望も出てきています。皆さんと一緒に最善策を考えていきたいと思っています。

### 4. 都市基盤の整備

「健康とまちづくりは、密接な関係がある」といった事が言われています。また、まちづくりの失敗は後世に引きずることになります。地籍調査について質問をさせていただきましたが、今後も未来を見据えて調査研究を進めていきたいと思っています。

### 5. 人口減少時代のまちづくり

観光施策、市のPR方法、高齢者福祉、児童福祉など、人口減と人口構造の変化に伴う問題に対し、さまざまな提言をしてまいりました。今後も引き続き、先進地の事例などを研究しながら提言していきたいと思っています。

### 6. 災害に強いまちづくり

防災は、ソフトである人が重要になってきます。有事の際にしっかり取り組めるように日頃からの備えが必要です。ペット同行避難や福祉避難所など東日本大震災などから学んだ取り組みを提案してまいりました。

### 7. 働き場所のあるまちづくり

障がいや家庭環境に関係なく、どんな子どもでも大人になったら自立出来るようにしたいと取り組んでいます。簡単にはいきませんが、糸口を見つけて未来につなげたいです。

### 8. 生き活きと生活ができる地域に

やりたい事が実現できるまち、そしてその人をみんなで応援してあげられるまちになればと願っています。「あなたの夢は何ですか？」今後も誰もが笑顔で生活できるようにしっかり取り組みます。



## <各種視察・調査・体験>

外国人のための日本語教室参加!



地域に住む外国人との交流!この地域の魅力などいろいろなお話も聞くことが出来ました。

コミュニティカフェ視察(大阪府)



若者・ビジネスも含めた居場所のあり方を学びました。

桑名市視察(三重県)



全国議員仲間と桑名市長を囲んで!

納涼盆踊り視察・歌い手で参加



今年も2か所で文化伝えるために歌い手として参加させて頂きました!

なりかわ facebook で活動公開中!

# 成川まさゆき



## なりかわ 成川まさゆき後援会

〒938-0014 富山県黒部市植木 107-7  
TEL&FAX(0765)57-1189  
Mail/masa.narikawa@gmail.com